

令和7年度鶴岡市決算の概要

- ・ 普通会計
- ・ 病院事業会計
- ・ 水道事業会計
- ・ 下水道事業会計

I 令和7年度普通会計決算について

	令和7年度	令和6年度	増減
歳入 ①	843億9,589万円	797億3,527万円	46億6,062万円
歳出 ②	829億9,451万円	782億1,792万円	47億7,659万円
形式収支 ③=①-②	14億138万円	15億1,735万円	▲1億1,597万円
翌年度に繰り越す べき財源 ④	3億6,582万円	3億2,070万円	4,512万円
実質収支⑤=③-④	10億3,556万円	11億9,665万円	▲1億6,109万円
単年度収支 ⑥=⑤-⑤'	▲1億6,109万円	▲1,080万円	▲1億5,029万円
財政調整基金 積立金 ⑦	6億1,105万円	714万円	6億391万円
繰上償還金 ⑧	0万円	3億7,775万円	▲3億7,775万円
財政調整基金 取り崩し額 ⑨	14億円	17億5,000万円	▲3億5,000万円
実質単年度収支 ⑩=⑥+⑦+⑧-⑨	▲9億5,004万円	▲13億7,591万円	4億2,587万円

1 決算規模 歳入①は対前年度で約46.6億円の増加、歳出②は約47.8億円の増加

(歳入・歳出とも過去2番目の規模)

→ 加茂水族館改築事業や道の駅あつみ移転整備事業等の大型投資事業の実施、物件費の増などによる。

2 単年度収支⑥は、約1.6億円の赤字

→ マイナス要素：物件費の増、維持補修費の増、人件費の増

プラス要素：公債費の減、市税の増

3 実質単年度収支⑩は、約9.5億円の赤字

→ 単年度収支⑥ ▲1.6億円 + 財政調整基金積立金⑦ 6.1億円 + 繰上償還金⑧ 0 - 財政調整基金取崩し14億円⑨ = ▲9.5億円

4 基金残高は、35.1億円の減少

(133.3億円 → 98.2億円)

【取崩額の大きかったもの】

(令和7年度末残高)

財政調整基金	14.0億円	25.1億円
減債基金	10.0億円	24.7億円
地域振興基金	8.5億円	19.1億円
公共施設整備基金	4.7億円	19.8億円
加茂水族館整備振興基金	4.1億円	1.0億円

5 市債残高は、7.0億円の減少

(691.7億円 → 684.7億円)

2 令和7年度病院事業会計決算について

	令和7年度	令和6年度	増減
病院事業収益①	143億4,878万円	138億552万円	5億4,326万円
うち医業収益②	121億6,045万円	118億7,879万円	2億8,166万円
うち入院収益	89億9,709万円	87億7,938万円	2億1,771万円
うち外来収益	26億4,605万円	25億9,275万円	5,330万円
うち医業外収益③	18億682万円	15億3,491万円	2億7,191万円
病院事業費用④	155億448万円	148億5,556万円	6億4,892万円
うち医業費用⑤	146億4,565万円	138億9,817万円	7億4,748万円
うち給与費	74億4,275万円	70億2,498万円	4億1,777万円
うち材料費	24億4,358万円	23億2,846万円	1億1,512万円
うち経費	34億5,955万円	33億5,037万円	1億918万円
うち減価償却費	10億16万円	9億181万円	9,835万円
うち医業外費用⑥	7億69万円	7億8,653万円	▲8,584万円
収支（損益）⑦ （①－④）	▲11億5,570万円	▲10億5,004万円	▲1億566万円

	令和7年度	令和6年度	増減
資本的収入⑧	19億5,784万円	29億3,259万円	▲9億7,475万円
資本的支出⑨	26億2,992万円	36億450万円	▲9億7,458万円
差引⑩ （⑧－⑨）	▲6億7,208万円	▲6億7,191万円	▲17万円

1 収益的収支

収益①は、対前年度で約5.4億円の増加
費用④は、対前年度で約6.5億円の増加
損益⑦は、約11.6億円の純損失

→収益の増は、荘内病院における患者数の増や、国県補助金（賃上げ・物価上昇支援金等）の増による。

→費用の増は、給与費、材料費、経費（委託料、賃借料）の増による。

2 資本的収支

資本的収入⑧は、対前年度で約9.7億円の減少
資本的支出⑨は、対前年度で約9.7億円の減少
差引⑩は、約6.7億円の不足

→収入の減は、企業債、他会計負担金の減による。

→支出の減は、看護学校整備費の減による。

3 企業債残高

残高は、対前年度で約4.6億円の減少

→病院建設時の償還が進んだほか、画像管理システム（PACS）等のR2年度機器整備分借入の償還終了による。

4 一般会計からの繰入金

約23.0億円（R6:約29.0億円、R5:約21.5億円）

	令和7年度	令和6年度	増減
現金預金残高	1億7,324万円	18億9,099万円	▲17億1,775万円
企業債残高	111億3,630万円	116億86万円	▲4億6,456万円

3 令和7年度水道事業会計決算について

	令和7年度	令和6年度	増減
収益 ①	32億4,824万円	32億4,828万円	▲4万円
営業収益	28億219万円	28億1,188万円	▲969万円
営業外収益	4億4,605万円	4億2,853万円	1,752万円
特別利益	0	787万円	▲787万円
費用 ②	30億4,465万円	29億3,757万円	1億708万円
営業費用	29億8,442万円	28億7,637万円	1億805万円
営業外費用	6,021万円	6,120万円	▲99万円
特別損失	2万円	0	2万円
損益 ③=①-②	2億359万円	3億1,071万円	▲1億712万円

	令和7年度	令和6年度	増減
資本的収入 ④	9億2,660万円	5億9,145万円	3億3,515万円
資本的支出 ⑤	17億9,643万円	17億2,358万円	7,285万円
差引 ⑥=④-⑤	▲8億6,983万円	▲11億3,213万円	2億6,230万円
前年度未払充当財源	▲2億4,610万円	▲7,390万円	▲1億7,220万円
収支不足額 ⑦	▲11億1,593万円	▲12億603万円	9,010万円

1 収益的収支

収益①は、対前年度で4万円の減少、
費用②は、対前年度で約1.1億円の増加

→人口減少等に伴う給水収益の減少による収益減少傾向が続く
→公道漏水対応の修繕費や建設改良工事に伴う除却費の増により費用増加

2 損益③は、約2億円の黒字

→費用増加の影響により純利益が対前年度で約1.1億円減少

3 資本的収支

資本的収入④は、対前年度で約3.4億円の増加、
資本的支出⑤は、約7千万円の増加

→企業債の借入に伴い収入が増加
→耐震化、老朽管路更新等の建設改良工事の増により支出が増加
→資本的収入額が資本的支出額に不足する額約11.2億円は、従来同様に内部留保資金等で補填

4 内部留保資金（正味運転資本金）

対前年度で約1.1億円増加し、40億円超を維持

5 企業債残高

借入額の増加に伴い、対前年度で約2.2億円の増加

6 一般会計からの繰入金

3,076万円（R6: 3,477万円、R5:3,366万円）

	令和7年度	令和6年度	増減
内部留保資金	42億5,271万円	41億4,696万円	1億575万円
企業債残高	26億6,219万円	24億3,819万円	2億2,400万円

4 令和7年度下水道事業会計決算について

	令和7年度	令和6年度	増減
収益 ①	52億7,317万円	53億8,099万円	▲1億782万円
営業収益	26億1,437万円	26億5,511万円	▲4,074万円
営業外収益	26億5,604万円	27億2,017万円	▲6,413万円
特別利益	276万円	571万円	▲295万円
費用 ②	52億7,278万円	53億8,051万円	▲1億773万円
営業費用	49億5,397万円	50億3,560万円	▲8,163万円
営業外費用	3億1,881万円	3億4,491万円	▲2,610万円
特別損失	0	0	0
損益 ③=①-②	39万円	48万円	▲9万円

	令和7年度	令和6年度	増減
資本的収入 ④	52億5,292万円	51億2,641万円	1億2,651万円
資本的支出 ⑤	67億6,466万円	69億387万円	▲1億3,921万円
差引 ⑥=④-⑤	▲15億1,174万円	▲17億7,746万円	2億6,572万円
前年度及び 翌年度事業充当財源	▲10億2,550万円	▲11億1,986万円	9,436万円
収支不足額 ⑦	▲25億3,724万円	▲28億9,732万円	3億6,008万円

	令和7年度	令和6年度	増減
内部留保資金	16億6,402万円	11億105万円	5億6,297万円
企業債残高	287億8,479万円	288億9,004万円	▲1億525万円

1 収益的収支

収益①は、対前年度で約1.1億円の減少

費用②は、対前年度で約1.1億円の減少

- 使用料収入が微増した一方、国庫補助金等その他収入が減少
- 施設の維持修繕や管理経費が増加の一方、企業債支払利息等その他支出が減少

2 損益③は、39万円の黒字

→一般会計からの基準外繰入金を下水道事業全体で赤字にならない範囲で精算

3 資本的収支

資本的収入④は、対前年度で約1.3億円の増加

資本的支出⑤は、対前年度で約1.4億円の減少

- 前年度や当年度の建設改良事業で企業債を借入したことによる収入の増加、建設改良事業を翌年度への繰越による支出の減少
- 資本的収入額が資本的支出額に不足する額 約25.4億円は、従来同様に内部留保資金等で補填

4 内部留保資金（正味運転資本金）

対前年度で約5.6億円の増加

→出納閉鎖期間がないため、令和7年5月借入の企業債によって3月31日決算時点では増加。令和8年5月借入の企業債は約5億円減少。

5 企業債残高

対前年度で約1.1億円の減少

6 一般会計からの繰入金

約22.1億円（R6:約23.5億円、R5:約25.3億円）